



京丹後市宇川地域をフィールドとした 持続可能な地域社会を構想するプロジェクト

龍谷大学/政策学部/今里ゼミナール

指導責任者：今里佳奈子、長谷川裕晃
府内の活動地域：京丹後市丹後町宇川地域

取り組んだ課題

宇川地域をフィールドに、持続可能な地域社会の実現に向けた実践的研究を2015年から継続している。人口減少率、高齢化率が高く深刻な課題を抱える同地域で、月1回現地にて合宿をし「自治」と「協働」を軸にした多角的アプローチを展開している。

課題に対するPBL実施の成果

合宿実施回数（4月から） 計 8回

春季活動（4月～5月）

4月
地域との関係構築と農業支援
金曜市でのボランティア活動
田植え準備：水路清掃と苗床作成

5月
農業活動と地域調査
田植えと田んぼの草刈り作業
でんご山の環境整備
地域住民へのインタビュー調査開始



水路清掃の様子



田植えイベントの様子

夏季活動（6月～8月）

6月
農業活動の拡大と地域交流
畑でのタマネギ栽培
でんご山整備の継続、でんご山登山イベントの開催
地域住民へのヒアリング調査

7月
地域活性化プロジェクト
空き家リノベーション事業の開始
地元産梅を使用したジャム製造と販売
地域イベントへの参加

8月
夏季イベント支援
鮎まつりでのボランティア活動
OCマルシェへの参加



でんご山イベントの様子



空き家リノベーションの様子

秋季活動（9月～11月）

9月
地域資源活用と交流促進
梅ジャム製造の継続
でんご山整備と空き家リノベーションの進行

10月
環境保全と教育活動
梅ジャム製造と販売の継続
でんご山整備と空き家リノベーションの推進
水路の定期点検
地域の子どもたちと連携した生き物調査の実施

11月: 文化振興と地域活性化
宇川地域文化祭でのフォトコンテスト開催
空き家リノベーション事業の継続



町家交流会の様子



梅ジャムづくりの様子

その他の活動

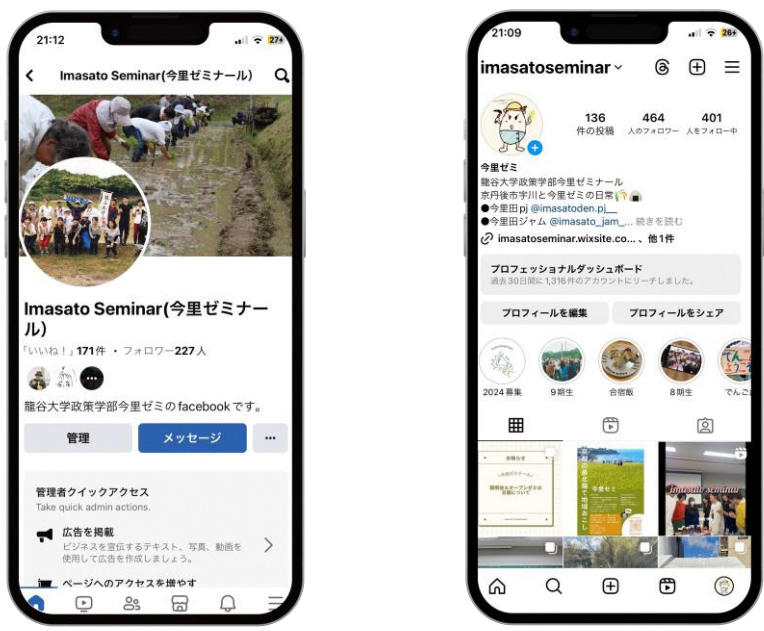
現地での合宿だけでなく、年間を通じて宇川地域と都市部をつなぎ、地域の魅力を広く発信することで、持続可能な地域づくりを支援している。

定期的な情報発信

- ・年4回の月報を宇川地域全戸に配布し、活動報告や地域の最新情報を共有
- ・SNSを活用した地域の魅力発信により、若年層へのアプローチを強化



月報今里の発行



SNSによる地域の魅力発信

地域の魅力を視覚化

- ・フォトコンテスト応募作品を活用したカレンダーを制作し、宇川地域全戸に配布
- ・地域の四季や日常の風景を通じて、住民の郷土愛醸成と外部への魅力発信を実現



カレンダーの作成

子ども向け体験イベント

- ・京都市の子どもたちを対象に、宇川地域の自然や文化を体験するイベントを開催
- ・都市と農村の交流を通じて、次世代の関係人口創出を目指す



町家交流会でのイベントの様子



マルシェの様子

都市部でのマルシェ参加

- ・京都市内のマルシェに出店し、宇川地域の食材を使った商品を販売
- 地域の特産品や加工品のPRにより、都市住民の興味喚起と経済的支援を促進

今後の課題

- ・現地活動の実施回数を増やし、学生の実践的スキルの向上を図る。
- ・移動手段が限られているため柔軟に広範囲で活動が出来ない。
- ・行政や地域との定期的な情報共有会議や、連絡体制の再構築。

取り組みに対する想い

地域との関係性の再認識

合宿やフィールドワークを重ねる中で、我々は「地域へ行って活動している」という意識から、「活動させていただいている」という謙虚な姿勢へと変化した。この認識の転換は、地域住民との信頼関係構築に重要な役割を果たしている。

地域の魅力再発見と誇りの醸成

宇川文化祭でのフォトコンテスト開催は、地域住民や地域外の人々へ宇川の魅力を再発見する機会となった。この取り組みは、住民の地域に対する愛着や誇りを深める契機となり、我々は地域活性化における「内発的な動機づけ」の重要性を実感した。

都市と農村の架け橋

「都市と農村をつなげたい」という思いから、龍谷大学深草町家キャンパス（伏見区）で宇川地域を紹介するイベントを実施。この試みは、都市部の人々に宇川地域への興味を喚起する良い機会となり、学生たちは地域の魅力を外部に伝えることの意義を学んだ。

広範囲での地域PRの実現

様々なイベントやマルシェへの出店を通じて、宇川地域の魅力を伏見地域の住民や観光客に広く発信した。この経験は、地域活性化における「外部視点」の重要性と、多様な層に地域の魅力を伝えることの意義を再確認させるものとなった。

